

だい かい しんたいしょうがいしゃほじょけん
第24回 身体障害者補助犬シンポジウム

補助犬法20年を迎え



シンシアのまち宝塚から

- と き れいわ 令和4(2022)年ねん11月がつ26日にち(土)
14:00~16:00
- ところ たからづか フレミア宝塚 (1階 かい 運動室うんどうしつ)
- 主 催 しゅ さい たからづかし 宝塚市・たからづかしきょういくいいんかい 宝塚市教育委員会・まいにちしんぶんはんしんしきょく 毎日新聞阪神支局
- 後 援 こう えん たからづか 宝塚市 し しゃかいふく 社会福祉 しきょうぎかい 協議会

じぎょう この事業は、こうえきざいだんほうじん 公益財団法人 まいにちしんぶんおおさかしゃかいじぎょうだん 毎日新聞大阪社会事業団

ききん 「シンシア基金」の じよせい 助成を受けています。

身体障害者補助犬法20年を迎えて

2002年に議員立法により身体障害者補助犬法が成立し、盲導犬、介助犬、聴導犬が、身体障害者補助犬として法的に認められました。

宝塚市での身体障害者補助犬シンポジウムは、補助犬法が成立する前の1999年に、第1回を介助犬シンポジウムとして開催しました。

当時、宝塚市には国内3頭目の介助犬「シンシア」がおり、車椅子の障害者、木村佳友さんの手足となって日常生活を助けていました。しかし介助犬とペットを区別する法律はなく、木村さんは電車にも飲食店にも堂々と同伴できませんでした。「この現状を何とかしたい」。98年から介助犬公的認知を求めるキャンペーン報道を続けてきた毎日新聞とそれに呼応するように「シンシアのまち」を宣言して介助犬の受け入れを進めていた宝塚市が一緒に始めたのがこのシンポジウムです。

法律が成立し20年が経ちましたが、シンポジウムは続けています。理由の一つは、補助犬の認知が進まず、未だに補助犬同伴の受入れ拒否がなくなっていないからです。

第21回からは、未来を担う子ども達に参加してもらえようようなプログラムを取り入れてきました。補助犬のデモンストレーションだけでなく、介助犬トレーナーに、訓練方法や1日の生活を紹介してもらおうトークショー／ピッコロ劇団の俳優による紙芝居「グッドガール シンシア」の上演／ピッコロ劇団の俳優の指導により、子ども達が協力して紙芝居を上演するワークショップなどです。

今回は、子ども達が介助犬トレーナーから訓練方法を教わり、1日介助犬トレーナーに挑戦します。子ども達には、訓練体験の成果や感想を発表してもらいます。

今年は補助犬法が成立してから20年の節目にあたることから、補助犬法の成立に取り組まれた方々による座談会も実施します。20年の歴史を振り返り、障害者や補助犬を取り巻く現状を知り、すべての人にやさしい社会にするために、私たちに何ができるのかを考え、実践していく機会にできればと願っています。

2022年11月26日 主催者一同



ありし日のシンシア

(関連年表)

1998年 9月	毎日新聞が介助犬シンシアの連載開始 2006年2月まで523回
12月	宝塚市が市立施設への介助犬同伴を容認
1999年12月	宝塚市で第1回介助犬シンポジウム
2002年 5月	身体障害者補助犬法成立
12月	第4回から身体障害者補助犬シンポジウムに改称
2006年 3月	介助犬シンシア亡くなる
2015年 3月	JR宝塚駅にシンシア像設置
2018年 9月	宝塚市が公用車に補助犬シールを貼りPR
2020-21年	新型コロナの感染拡大により、オンデマンド配信開催



JR宝塚駅のシンシア像
「すべての人にやさしい街づくり」を目指すシンボルとして設置された。

【プログラム】

- 14:00 開会 主催者代表あいさつ
山崎 晴恵（宝塚市長）
- 14:05 NPO法人 兵庫介助犬協会による
介助犬デモンストレーション
実演：介助犬PR犬：アリシア・ココス
- 14:30 座談会
◇コーディネーター
山本 真也（毎日新聞神戸支局）
◇パネリスト
中川 智子さん（前宝塚市長）
北澤 光大さん（兵庫介助犬協会 理事長）
木村 佳友さん（日本介助犬使用者の会 会長）
- 15:25 1日介助犬トレーナーになってみよう
（介助犬訓練体験の成果発表）
秋山 美樹さん、井土 希さん
（兵庫介助犬協会 トレーナー）
発表者：訓練体験者6名
- 15:55 閉会あいさつ
稲垣 淳（毎日新聞阪神支局長）
- 16:00 閉会

●その他 介助犬の啓発活動・募金など
NPO法人 兵庫介助犬協会



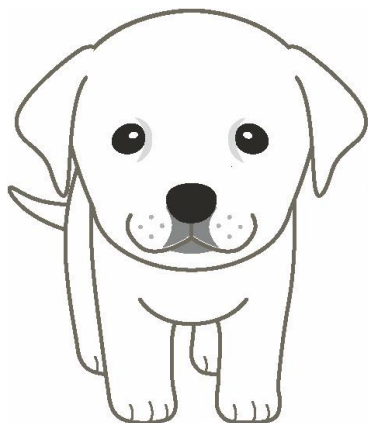
第21回補助犬シンポジウム



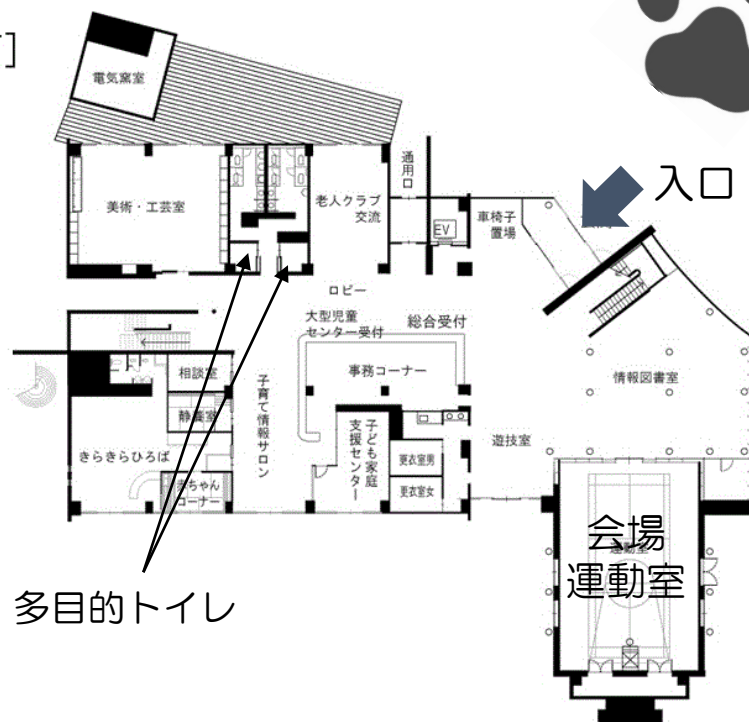
第20回補助犬シンポジウム



【フレミラ宝塚 フロアガイド】



[1F]



介助犬を知っていますか？

盲導犬が目の不自由な人を手助けするように、介助犬は病気や事故で手や足が不自由になった人を手助けするように特別な訓練を受けた犬のことで

介助犬は、身体の不自由な人の手や足の代わりになって、電話の子機やリモコンをもってきてくれます。ドアだって開けてくれますし、冷蔵庫の扉を開けてジュースも持ってきてくれます。スーパーや病院などに出かけたときには、身体の不自由な人につきそって、車いすをひっぱったり、落とした物をひろってくれます。小さなコインやうすっぱらいカードだってひろえますよ。



介助犬になるには、1歳くらいから1年～1年半の訓練を受けます。介助犬がうれしくて仕事ができるように、ほめることでトレーニングします。うまくできなくてもおこったりせず、うまくできたときにほめてあげていっぱい遊んであげます。

盲導犬も同じだけれど、町で介助犬を見かけたら、そっと見守っててくださいね。声をかけたり、なでたり、エサをあげたりすると、いっしょうけんめいお仕事をしている介助犬がとても困ってしまいますから・・・。

日本には介助犬が60頭くらいしかいなくて、介助犬のことを知らない人がたくさんいるので、ご家族や知り合いの人に教えてあげてください。

2022.11.26 木村佳友&介助犬デイジー

参加する介助犬、PR犬

◇介助犬PR犬
アリシア メス4歳
ゴールデンレトリバー



◇介助犬PR犬
ココス メス4歳
ラブラドルとゴールデンの雑種

◇介助犬(現役)
テイジー メス10歳
ラブラドルレトリバー

【座談会の出演者紹介】

◇中川 智子 (なかがわ ともこ) さん

和歌山生まれ。1978年に宝塚市に移住し、育児教室開設や阪神大震災ボランティア活動に携わる。96年に土井たか子氏の要請で出馬した衆院選で初当選。2期7年務め、身体障害者補助犬法成立に尽力した。2009年には宝塚市長に初当選。市障害者差別解消条例を制定するなど3期12年務めた。

◇北澤 光大 (きたざわ みつひろ) さん

2005年に兵庫県西宮市で兵庫介助犬協会を立ち上げる。06年兵庫県から認証を受けて特定非営利活動法人となり理事長に就任。全国各地の身体障害者に介助犬を提供。訓練、介助犬使用者への指導、啓発活動、次世代を担う訓練士の養成、法人の運営等、様々な業務に携わる。

◇木村 佳友 (きむら よしとも) さん

日本介助犬使用者の会会長。宝塚市大使。1987年に交通事故で車いすの生活となる。96年に飼いだったシンシアが日本3頭目の介助犬となる。介助犬の普及啓発に取り組み、身体障害者補助犬法の成立に尽力。2代目エルモを経て、3代目デイジーと生活。関西学院大学非常勤講師も努める。

◇山本 真也 (やまもと しんや)

毎日新聞神戸支局記者兼地方部エリア編集委員。1988年入社。98年に木村佳友さんと介助犬シンシアと出会い、介助犬のキャンペーン報道を担当した。社会部編集委員から2020年に現職。身体障害者補助犬法の成立から20年を経た補助犬使用者を取り巻く現状を取材している。